

指導事例 9 外国語 伝え合いを通して表現能力を高める 第2学年「比較級の用法」

【単元の構成について】
 本単元で扱う文法事項は形容詞及び副詞の比較変化であり、比較級、最上級、同等比較の用法を段階的に導入する。1時間目に新出表現を理解する活動「要素Ⅰ」を位置付け、2時間目に新出表現を活用して表現させるコミュニケーション活動「要素Ⅱ」及び、友達からのアドバイスを基に相手によりよく伝える表現の仕方を再考させる「要素Ⅲ」を行う。このような活動を繰り返すことで、比較級、最上級、同等比較を含む文を用いた表現の能力を高める。

1 単元の目標

- ・比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を聞いたり読んだりして、その内容を正しく理解する。
- ・比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を用いて、身近な事柄について話したり書いたりする。

2 単元の評価規準

コミュニケーションへの 関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての 知識・理解
間違うことを恐れず、積極的に自分の考えなどを話したり、書いたりしている。	比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を用いて、身近な事柄について話したり書いたりして、自分の考えや気持ち、事実などを誤解なく相手に伝えることができる。	比較級、最上級、同等比較の用法を含む文を聞いたり読んだりして、相手の意向や具体的な内容など、相手が伝えようとするものが理解できる。	比較級、最上級、同等比較の用法を含む文の意味・用法を理解している。

3 単元の指導計画（全8時間）

時	学習活動	言語活動に関する指導上の留意点	評価の観点
第1時	○比較級の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第2時 (本時)	○比較級を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、書く活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力
第3時	○最上級の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第4時	○最上級を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、話す活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力
第5時	○more を付ける比較級及び most を付ける最上級の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第6時	○more を付ける比較級及び most を付ける最上級を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、話す活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力
第7時	○同等比較の導入 ○本文の読解・音読練習	・既習の表現と関連付けて、新出表現を理解させる。新出表現の文構造や語法を理解させる。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語理解の能力 ・言語や文化についての知識・理解
第8時	○同等比較を用いたコミュニケーション活動	・身近な事柄について説明する文を自ら考え、書く活動を行う。生徒同士の学び合いの場を設定する。	・コミュニケーションへの関心・意欲・態度 ・外国語表現の能力

4 本時の学習（第2時）

<p>【本時における言語活動】</p> <p>「要素Ⅰ 自己の思考」…どの表現を使用すれば自分の考えや気持ち、事実などをよりよく伝えることができるか考えさせる</p> <p>「要素Ⅱ 伝え合い」…作成した問題を4人グループでお互いに読み合い、グループのメンバーが1文ずつアイデアを出し、問題文を付け加える</p> <p>「要素Ⅲ 思考のまとめ」…ワークシートに、修正点や新たな工夫を書き加える。</p>

- (1) ねらい
比較級の用法を含む文を用いて、身近な事柄について書く。
- (2) 本時の展開

	学習活動	◇指導上の留意点〔評価〕 評価規準【観点】（評価方法）
導入	<p>1 前時に学んだ表現を想起する。</p> <p>2 本時のねらいを確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な形容詞を比較級にする。 教師が出題する比較級の問題を聞いて、解答する。 	<p>◇ICT 機器や黒板掲示を活用し、視覚的に情報を伝え、形容詞の比較変化や比較級の用法を用いた文の意味や構造などを想起させやすくする。前時の復習から本時のねらいへスムーズに迫り、比較級を用いて文を書くことへ関心・意欲をもたせる。</p>
	<p>比較級を使って問題を作ろう</p>	
展開	<p>3 比較級を用いて各自で問題を作成する。</p> <p>要素Ⅰ 自己の思考</p> <ul style="list-style-type: none"> 問題文（クイズ）を考え、自分が考えた英文をワークシートに書く。 (例) What am I? I am bigger than a cat. 	<p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇必要な語彙や問題（クイズ）の作成方法を確認する。</p> <p>◇様々な形容詞の比較級を使わせて、相手に伝えたい内容を伝えるのに適切な表現を考えさせる。</p> <p>◇動物の特徴をどのように表現するのか例示して、既習の表現を使わせたり、未習語に触れさせたりすることで、語彙を広げる。</p> <p>◇教科書、ワークシート、ノート、辞書、掲示などから必要な情報を得て活用させる。</p>
	<p>4 問題（クイズ）の問題を読み合い、アドバイスし合う。</p> <p>要素Ⅱ 伝え合い</p> <ul style="list-style-type: none"> グループになり、各自のワークシートを時計回りで、それぞれが作成した問題（クイズ）にアドバイスする。 	<p>◇活動の目的と活動の手順を伝える。</p> <p>①友達の作文を読み、内容を理解する。</p> <p>②問題（クイズ）としてより分かりやすく相手に伝えられるよう英文の内容について友達にアドバイスする。自分のアイデアを一文付け加える。</p> <p>③比較級が正しく書けているか確認する。誤りがあれば訂正する。</p> <p>◇他の生徒の作成した問題（クイズ）を読み、一文付け加えることで、様々な形容詞や既習の表現を使って英文を作ることができることに気付かせる。</p> <p>◇比較級を用いて大きさや速度などの違いを多様に表現できる。</p> <p>〔評価〕 ⇒ 間違えることを恐れず、積極的に自分の考えなどを話したり、書いたりしている。</p> <p>【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】 (グループ活動の様子)</p>
	<p>5 他の生徒の発表のよいところを取り入れ、各自で問題（クイズ）を書き足し、修正する。</p> <p>要素Ⅲ 思考のまとめ</p> <ul style="list-style-type: none"> ワークシートに、修正点や新たな工夫を書き加える。 	<p>基盤：学習情報の獲得</p> <p>◇他の生徒が考えたアイデアのよいところを取り入れる。</p> <p>〔評価〕 ⇒ 伝え合いを通して、英文を見直し、修正したり加えたりしている。</p> <p>【外国語表現の能力】（ワークシート）</p>
まとめ	<p>6 学習を振り返り、次時の見通しをもたせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> 学習の目標を達成できたかどうか振り返る。 	<p>◇次時からは1グループずつ問題（クイズ）の出題者となり、英語を話す活動を行う。</p>

【活用のポイント】

- 英語の基礎的・基本的な知識・技能を習得するためには、反復練習だけでなく、実際に言語の働きや言語の使用場面を踏まえた自己表現活動を通して定着を図ることが大切である。
- 具体的な場面や状況を設定し、その場に合った適切な表現を自ら考えて活動できる言語活動を設定することが大切である。
- 新出表現については、身の回りのどのような場面で使用したくなるかイメージさせたり、これまでの経験を想起させたりする指導の工夫が有効である。